



## ウラン探鉱 ウラン濃縮技術の開発

### ウラン探鉱

#### 1. 事業整理

海外ウラン探鉱事業の整理を進めてきたが、2002年6月25日にオーストラリア現地法人が保有していた、アーネムランドウエスト鉱業権益の海外企業への売却手続きを完了した。これをもって海外における探鉱業務は終了した。

なお、7月初旬にオーストラリア現地法人を解散し、清算を開始する。

(東濃地科学センター)

### ウラン濃縮技術の開発

#### 1. 原型プラント

第一運転単位(DOP 1)は2001年2月に、原料の供給を終了し、窒素ガスを封入し維持している。第二運転単位(DOP 2)については、1999年11月に、窒素ガスを封入し維持している。

均質設備において日本原燃(株)再処理工場試運転のために劣化ウランの輸送容器への詰替えを開始した。

UF6処理設備のうち一部の機器等について、DOP 2で予定している滞留ウラン除去・回収試験に転用するため、閉止措置の工事を開始した。

#### 2. 濃縮工学施設

日本原燃(株)再処理工場試運転のために劣化

ウランの輸送容器への詰替えを開始した。

#### 3. 滞留ウラン除去・回収技術開発

濃縮機器やプラント内に滞留しているウランを除去・回収することを目的として、製錬転換施設においてフッ化ガス(フッ化ヨウ素)製造設備の運転を継続した。また、原型プラントDOP 2において試験装置の設置工事を開始した。

濃縮工学施設においては、遠心機の寿命延長を目的として、DOP 2遠心機セットを用いた長期化運転技術開発に関する試験のための設備改造を終了し、運転試験を開始した。

(人形：環境保全技術開発部)